

<口腔の役割>

ロックミュージシャンと親知らず

歯茎に半分隠れたり、横向きに生えた親知らずは、いろいろな問題を引き起こすことがあります。

親知らずは10代後半から20代前半にかけて生えてくる一番奥の歯で、前から数えて8番目にあたります。昔はこの歯が生えるころには親が亡くなっていたことが多く、「親が知ることなく生えてくる歯」であることが由来で「親知らず（親不知）」と呼ばれます。

現代人の顎は進化の過程で小さくなっているため、親知らずが正常に生えるスペースが不足していることが多く、これが埋まったままや横向きに生える理由です。



横向きに埋まった親知らず
隣の歯を圧迫しています

特に横向きに生えた親知らずから直接影響を受けるのは隣の歯です。隣の歯に圧力をかけ続けるため、歯並びが乱れることがあります。奥歯が押されることから全体の咬み合わせが不安定になることもあります。歯並びの見た目はもちろん、顎の関節に負担がかかれば、顎関節症のリスクが高まります。また歯ブラシが届きにくく効果的な歯磨きが難しくなります。その結果、食べかすや細菌が溜まりやすくなり、親知らずはもちろん、隣の歯までむし歯ができてしまいます。そして細菌が増殖すると歯茎が炎症を起こし、歯周病が進行します。歯周病は歯茎の腫れや出血の原因となり、歯周ポケットが深くなると隣の

歯を支える骨が吸収し、歯がぐらつき、最終的には歯を失うことにもなりかねません。

歯茎の腫れを繰り返す親知らず、これを放置すると、さらに悪化することがあります。完全に生えず、埋まった親知らずの周囲に細菌が溜まると感染症や膿瘍（のうよう）を発生することがあります。感染が起こると痛みや腫れが出て、口を開けることが出来なくなります。膿瘍は細菌感染によって生じる膿の塊で、深刻な場合は発熱し、顎だけでなく顔や喉、首にさえ広がる可能性があります。

さてロックミュージシャンである矢沢永吉さんも実は親知らずで苦労した一人です。自叙伝『成り上がり（角川文庫 1980年）』では「オレが、歯を悪くしたわけよ、オヤシラズ。死にそうになったんだ。（中略）それで、腐ってきだしたわけよ、奥歯が。化膿しだしたのね。強力に。ものすごく腫れたわけ。口が開かなくなるほどだった。」と親知らずで苦しめられた当時が語られています。この親知らずの闘病記はさらに続き、「結局、一か月間、バンド活動ができなかった。一か月後に戻ったときに、バンドはもうダメだった。」と、当時ブレイクしかけていたバンドが、よくあるメンバーの「音楽性の違い」ではなく、頓挫してしまった理由が何と「親知らず」だったのです。

重症化した親知らずの感染症は入院し、抗菌薬の点滴や切開などの外科的な治療が必要になることがあります。ひとりのロックミュージシャンの人生の転機をも左右した親知らずの珍しい話でしたが、親知らずが気になる人は一度かかりつけ歯科医院に相談してみてもはどうでしょうか。

【歯科口腔外科診療部長 今井正之】

